

13 遠
2209
卷 51



暁任宛書
暁山結
暁山結
暁山結

暁山の
暁山の
暁山の

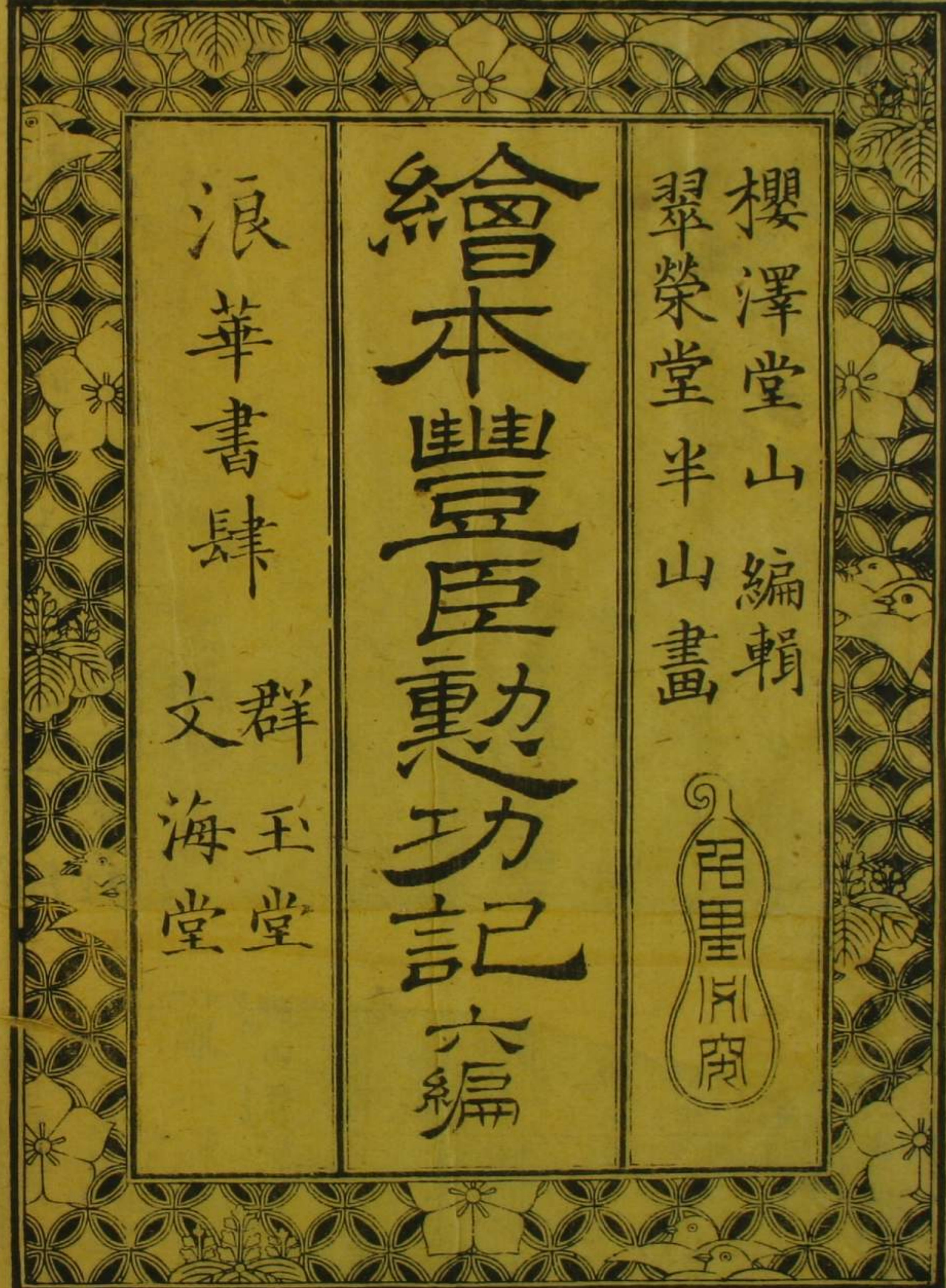
櫻澤堂山編輯
翠榮堂半山畫

昭用齋

繪本豐臣勲功記六編

浪華書肆

群玉堂
文海堂





明智將軍日向守
源光秀



羽柴筑前守
平秀吉



小栗村松夫
中村長兵衛



明智光秀息子
細川忠興府春
楓方

繪本豐臣勲功記六編卷之壹

目録

抗^{ちくせん}前^の守^の火^を急^に還^す兵^を於^て中^の國^に

屬^{あまう}尼^き崎^を危^き難^を

四^し王^{おう}天^{てん}追^お秀^{しゆ}右^を駿^を廣^{くわう}德^{とく}寺^じ

屬^{あまう}寺^じ中^{ちゆう}所^{じよ}智^ち



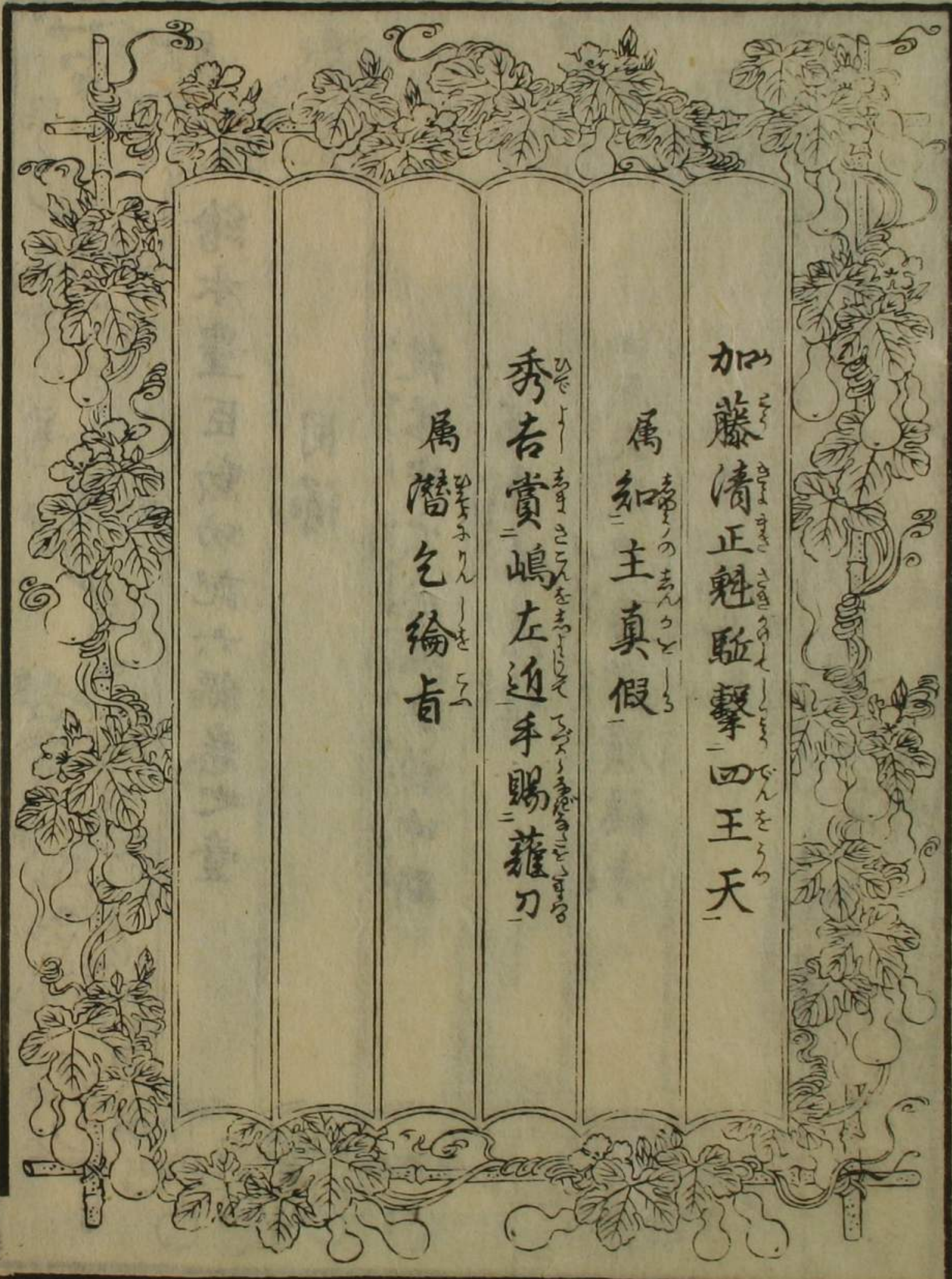
明智^{あけち}龍^{りゆう}馬^ま之^の助^{すけ}
先^ま俊^{しゆん}

加藤清正魁駭擊四王天

属知主真假

秀吉賞嶋左近手賜薙刀

属潜乞綸旨



繪本豊臣勲功記六編卷之三

江戸櫻澤堂山編輯

筑前守火急還兵於中國属尼崎危難

蜜鯉激瀑の方あり。六穴の肉尽すとも。二十六の鱗と落さず。
神龍騰天の術あり。十二の爪の存せざれども。雙角を亡
せむ。鯉龍を威と示せりと斯の如し。這譬喩とめ。豊公
が。這一彈と雅むるものあり。彼廣徳寺の浴室小夜と脱
て浴せし。験小靈鯉魚の落鱗なり。發髮と利御する
恰も神龍の亡角をさるに似たりと。這嘲へ中川が。荷擔ゆら
人の語とこそ。所ゆきとあさる天下小神將なる。豊臣殿小お
ひてをや。鯉鯉ととも。小一口の彈論とあまきえ。後と見て



よく喬しめせと解明せらるるも治中の一臂歟徒給ハ閣下
 若小明智日向守光秀ハ第一番小中国ニ馳遣し
 藤田傳八却て秀吉の幸用とあり。所地小落命あり
 とりとも。施薬院中將の若小より。中国和睦の綱を
 駘おろひ小駘を。然るハ火急小準備せし。以王天個
 馬守。明石儀太丈のあ個と招き。針畧と採示しつ。七十
 餘人の強兵と隨がらせ。尼崎をへぞ遣し。これ小因
 彼西勇士。各海相と百姓小お扮。悦中頭と單。篠笠と覆
 冠。毛長き蓑と身小纏ひ。瘦麻鞋蒲脰巾。多小く細
 簪捉。尼崎より西の宮。隣づくあ。りの道の傍小。こ
 人づ。牽別。路頭のこ。深く穿り。或ハ。深く混込し。

道修復する。慈小。目他。毎日羽柴と待渡り。登くも七日
 八日の頃ハ上卜の疾走使。當り。往來する。外事ハ
 ぐ。小。礼ね。中。國の軍和睦する。羽柴殿ハ夜と日
 小次。馳登ら。と駘え。又。手ハ。明石。日王。天。の
 此。やれ。秀吉。と。擒捉。小。と。掌小。啞。待。見。り。
 然。不。小。羽。柴。荒。茶。守。秀。吉。ハ。六月。六。日。小。備。中。有。陸。ガ
 鼻。の。陣。陣。と。辞。其。夜。ハ。酒。の。城。小。着。し。二十。里。進。き。途。と
 馳。く。七日。の。成。不。及。ぶ。と。路。の。城。小。着。す。道。中。條。村。に
 新。武。ハ。渡。津。山。波。る。ん。と。遠。く。大。谷。仙。石。神。子。田。小。命
 を。傳。つ。船。と。か。事。させ。騎。換。の。馬。と。等。牽。あ。させ。それ。の
 准。備。の。と。り。る。け。れ。ハ。斯。速。小。着。せ。し。り。至。將。然。を。不。駘

發まるれば。あどくは。從士の怠るべき。加藤。福嶋。ハハも更事。
片桐。平野。脇坂。榑谷。峰。須賀。淺野。高田。の。自。後。馳。後。
と。く。ハ。忠。る。と。武。士。の。恥。づ。き。道。小。と。そ。と。各。さ。る。か。ら。
韋。駄。天。の。三。聲。声。裡。小。供。版。と。吉。る。が。像。く。激。走。せ。り。
然。と。も。大。將。秀。吉。ハ。天。然。不。思。議。の。達。人。な。れ。ば。諸。軍。士。より
ハ。又。七。所。で。魁。行。て。馬。と。雜。り。後。面。と。晒。り。扇。と。搦。て。標。
き。稍。迫。づ。け。ハ。亦。荐。び。馬。騎。發。ま。加。減。の。奇。秘。絶。妙。を。解。
り。一。二。ハ。秀。吉。の。と。其。獨。長。と。これ。が。と。り。小。勇。將。達。より。
駛。率。雜。丈。小。ある。まで。大。將。の。指。揮。小。引。さ。れ。り。身。體。の
疲。勞。も。う。ち。忘。息。快。く。勢。一。を。並。記。け。る。が。加。藤。福。島。脇。坂。
儼。ハ。他。不。勝。れ。一。大。驟。あ。ら。ば。い。つ。も。馬。と。ハ。騎。倒。一。方。儀。ハ。各。

自。歩。行。と。り。跑。弱。蹄。と。借。ん。り。腰。騎。を。勝。あ。り。先。と
風。と。起。せ。る。猛。虎。の。像。く。地。と。轟。せ。り。並。出。一。急。ぐ。と。と。も
勿。く。小。大。將。小。逆。長。が。く。驟。断。を。つ。も。後。を。り。當。日。も。八。日。の
未。小。至。る。ら。り。羽。柴。殿。少。ハ。西。の。宮。の。駅。舎。よ。若。せ。玉。ひ。這。取。之。
諸。軍。勢。と。待。む。と。も。今。日。の。行。程。ハ。昨。日。より。最。疾。く。馳。ま。せ。
な。れ。ば。自。方。一。騎。も。隨。を。た。と。れ。く。より。く。破。ら。れ。く。る。本。陣。小。援。
せ。れ。暫。狗。休。息。せ。ま。せ。玉。ひ。馬。騎。換。り。只。單。騎。西。の。宮。の
驛。と。出。初。小。く。ら。も。馳。出。ま。り。それ。ハ。閣。を。大。坂。小。ハ。神。戶。佐。
孝。丹。羽。長。秀。と。り。あ。り。と。諸。將。と。城。中。ハ。陣。集。め。亡。父。の
吊。軍。と。せん。小。ハ。明。智。の。軍。配。ま。る。ぐ。り。と。齊。力。暨。か。と。れ。ば。
羽。柴。秀。吉。の。陣。陣。と。待。て。借。小。事。と。謀。らん。と。ハ。花。勝。と。備。中。



歸途 諸勢 火脚 秀吉 城 姫路 中 小 投

達々たる日量るく和睦の病係る。近き小隊るべきよりある
 由名丹羽中川等山係神戶と守護して尾崎の城小搬居
 送く廻馬と達々たる。今日八辰上刻まで姫路と出馬あり
 との若小長秀指揮し。中川瀬を清秀と。高山右近長
 房小。二百餘人と後からせ。羽柴の迎請不出せし。元人
 秀吉と。教まらせんがくめよりこそ。這駒曰王天佃馬守ハ明石
 儀を更と一町程隙程と隔く新兵の方便し。西の宮の道
 き名小。自松丹引く待せし。穢るや知れずや筑希と。草袴
 近小急がれ玉小。所借し。跟付人々。次取し。小馳後て。懐危
 おのふあり。黒田官兵衛孝高ハ。後陣の隊依たり。性得軍
 後藤又玄備基次。享年三十九一歳あり。性得軍

織の良材あり。文武両道小派練し。天然の妙し。得る謀
 士あり。然る小羽柴が諸軍勢。明石小休息せし。時合う
 基次主人考言わうち。憐ひ。此より根津小接近せし。款
 地小段も同然あり。然る小大將秀吉ハ。諸軍と導連。此
 小を中。都道く行ま。おがせ。危少も魁ハ。唯一騎進ま
 せ。此の麻退獵子の山と着る。傍あり。秀吉馳せ。六疊小
 せ。今人將小馳着く。その危と助け。勳功。拔。羣
 ろりぬべし。先や騎馬武者より。成騷行。馳させ。走。と病忙
 指揮する。小。後藤又玄備。母里太玄備。秦相着る。小

猛兵五十有餘騎一同下。護送て近出也。這時大将羽柴
 殿へ西の宮と一里あるを。飛が如く小純をひ。既小尾崎の
 願をへ投玉をんとする。坂道。義登身と懸く。ある
 百姓輩の六七人づ道修理あり。態と所覚ト。馬の驥
 界と溜りむ。雨們へ這所の百姓輩より。底とまらざる
 帆ねり。最怖げく身捧く。俺們輩へ當願分。厄々
 騎の輩なるが。微雨もく道途破損。往來絶危と存
 ず。而して這頃耕作の餘力あり。代わら。那般に修理なり
 け。言ふに成。聆統守。又もく奇持あり。所作あり。吾
 羽柴秀右なるが。這遭亡君信長公の弟合戦するらんすと。
 遙く登事あり。本日送賊明智と代り。又畿内平治する

ろ。其時とて。雨們も。道修復せ。寝袋と取せん。
 努て出精り。と。言事く馳あふ。亦六七歩ゆき
 ろ。道修復する。百姓輩。群り立。茶不來られ。親の
 如く言せり。馬と進めて馳あふ。十歩むり。行る。一個
 の百姓突起揚り。暗号と看え。襟度より。驚笛と括出
 一。二勢之勢。次記。這不彼所の百姓輩。平速く。叢
 槍拋矣。鋤登の棟。不辨。陰と自。推投。七十
 餘人。八方より。適ま。と。相。それ。中。一層。之。ハ
 這隊の大將。何。大。但。馬。守。改。孝。山。も。爾。大。喜。み。て。や。を。れ
 秀右斯。の。も。膽。も。消。ぶ。く。氣。も。滅。ま。す。一。汝。が。中。國。より。軍
 騎。馳。一。系。都。へ。馳。登。る。べ。き。事。へ。速。より。主。君。明。智。將。軍。

これに筒一めさせしれ。斯のみに王天但馬守、明石儀太史の
二將とせしむ。百姓の相お打合せ、筑前守と待こと久し。覺
期せしむと叫ぶ。馬を直瞿と立擁る。不憐の秀右
驚と一むひ。今来一道と示後路へ。退返さんと一むひ。明石
儀太史と名湯菟。二王の像く小譽つ。如何ある大量の秀
右も。此小進退の途と失多む。自方の勢つと後路断る。又
六町を隙と隔て、續く自方へ一騎もあけね。浩る危急
の期小落と。筑前守と救せしむ。後者へあくして。渾の下の洞
の氷と踏む意味せり。

王天退秀右騷廣德寺 馬寺中野智

命の期小遠を。智も亦極涯と據之。然ると継練の輩
あり。廣德寺裡小に王天。危急を適せし。後野が智
謀へ。某人小過つ。嗚呼。薑と膏と辛と。得て。未
清香の味。おる。燐と和らざる。小似し。然るど小羽柴。筑前守
秀右。尾崎の腹小おの。王天。明石儀。奸兵のさし小捕
縛られ。進まん。とまね。道路なり。退くとまね。救助なくて
今もや。方術。彈。這よ。唯。跨。得。馬と。持。姑。小。騎
脱。を。や。と。懸。一。鞭。あ。て。う。是。ハ。劉。備。ガ。適。驢。小。も。
尚。勝。り。さ。騷。足。る。ね。弓。長。期。丈。咫。騰。り。二。人。の。兵。士。ガ。茫
尖。そ。ろ。へ。擲。發。陰。と。直。中。より。拂。拵。と。踏。折。踏。あ。て。岳。破。と
跑。劍。一。六。七。目。不。と。駈。脱。一。ガ。天。よ。加。護。る。秀。右。ガ。奇。巧。の

此小頭より。蹄下小一條の徑路あり得たりと鞭小双拍合せ。
 一足跳小南方ある。かの徑路へ突馳しつれ。強兵軍へ追
 起。投逃まきとと推合。歴合。追蒐んとまきつとも。行程の
 路。覆いとも。密くし。二個へ並び馳がさつれ。魁ありて
 兵軍へ。深田の中へ。縛ひ居る。曰。王天頓小制止。爾後終
 まで小急とさる。此徑へこれ。窮路小。廣徳寺といふ
 寺への通路。之方へ。此邊の如く。馬脚の達する。深田あり
 潜通と。い外小。既秀吉へ。袋裡の氣を。噴退蒐て。後
 捉まらん。儀太史殿へ。諸士を。借小。漸く進来る。羽柴勢と。
 防ぎと。謂まき。彼徑路へ。馳出ま。其際。羽柴。秀吉
 田中の徑と。藪地小。駈脱。寺の門。茶小馬と。駈り。後路。馬

但馬守。巨擘と。擲り。追来る。所智の秀吉。倚と。又馬
 より。登く。跳で。下り。鞭面。控り。方僅。來り。路へ。鼻頭。おし。向け
 尾頭。く。繞り。太刀ひき。撃。高骨より。尾原へ。掛て。二刺。三刺
 次着。玉。つ。馬へ。駈き。最苦。け。小。嘶。叫。ひ。さ。跳。低。く。驛。り
 狂ひ。猛。り。つ。素。來。路。へ。駈。出。ま。都。る。畜。生。の。疾。と。負。と。死
 其。氣。す。あ。く。強。猛。り。人。と。怖。れ。ず。躍。る。もの。あり。
 坊々。や。名。馬。の。疾。と。お。ひ。た。れ。ば。その。猛。き。こと。狼。猪。の。像。く。
 暴。る。塵。く。相。ひ。あ。る。但。馬。守。へ。これ。張。着。り。汗。面。倒。や。と
 鼻。頭。控。り。香。倒。さん。む。る。い。う。小。ま。れ。とも。遮。が。り。
 おの。り。後。面。へ。二。足。三。足。鬻。去。り。利。身。へ。跳。邊。小。馬。へ。一。足
 高。く。嘶。り。躍。蒐。る。小。汗。王。天。身。と。沈。ま。せ。り。茶。足。と。緊。と

豊臣記六編卷之壹



羽柴の
速智驛を放ち
四王天政孝が
虎口の危急と道

九

豊臣記六編卷之壹



槍へ肥肝と肩小髯菟吃と呈揚力信小左方の深田へ
 泥烟を起し抛投背後をも晒せし廣徳寺へ先分
 如く小馳投多。浩りたる勢小秀吉の速くも寺中へ逃
 投むひいづへ身と解さんと。何方と眺と看するも小
 井幹と繞る籬色がらね小。浴室といふ額見へし。斯に
 究竟の躰高小こそと。灌佩楯層着まで。ひと小棠り
 石と結着井戸の中へ抛落し。赤裸くるり背門より。浴
 室小走投僧徒と借小安然こそと浴しむ。先小浴去る
 老僧も寺中の輩とやおもひん。看咎もせし灌合て背と
 合せ膝と番一或は泳し或は浴を。時境此へ投身。曰王天
 但馬守政孝。秀吉へ脱籠中の鳥。網裡の魚ごとと氣と安

鎮除こそとまづ本堂小上り。僧徒小獨ひし紙を曰く
 今這寺へ羽柴秀吉逃投しと着て来たり。何隅へ躲
 しゆされし哉。明智將軍の錠意多。快く出せと叫り
 む。曰角八面小眼と賊り。頼り小鞠同ける。信達へ素
 より知れぬ釋るれば。有の随小答えり。政孝祠と来りけ
 て。總し出家沙門の身へ。人と被り道るるをれど。將軍
 の命小背くれらば。是朝款小懸しと。寺院ありとそ
 用捨へかきん。正直小稟所らね。私あるを言ふと。東小
 衆僧等腹とて。斯に矜容の多死武士なり。何の因縁し
 羽柴とやと。解し科を招く。然るも抗疑する。あ
 念新し小堂被せし。這方曾る存せり。怖る處

更さも平へいと答こたへ改か孝こうの少せうや及およぶと縁ゆかり推おし拵ぢょうに本ほん堂どう客きやく殿でん
 分ぶん文ぶん庫く裡り緒ちよ化け麻まを。殘のこる隈かたなく探たづねられども。所ところを
 まさしくも和わささるゝ。庭にわに池いけなり茶ちや園えん植うゑ桐どう竹ちやく林りんあり。山やまの陰かげ卵たまご塔たつた揚やうを。最も子こ細こ小せう。尋たづねると影かげふし着きせ。但たゞ
 馬うま守まもりの鳥とりと焦あせ燥ばう。終つひ夜や又またの像ざうく暴あ匝まり。隅すみく隈かたに穿せん
 鑿ざうを。這ま時とき羽う紫むら秀しゆ吉きち。浴よく室しつの中ちゆうの石いしのぐさ。洗せん垢がう場ばうの
 隈かた子こ偃えんまり在ある。方かた偃えんを浴よくせ。僧そう達だつへ。四し王わう天てん々々
 事ことありと。秋あき毫ごも知しる。暑あつ熱ねつと避まんと。赤あか裸だうの生なま
 竹ちやく拵ぢょう。浴よく藝ぎと醒さめて在ある。と流ながる守まもり拵ぢょう口くちより。密ひそ
 と彼此たつたを看みて行いく。拵ぢょう類るいの架かの偏へん隅こ小せう。巖い石いし磨ま盤ばんの添そえ
 剃し刀たうあり。吁あ善ぜん便べん器きと視し出でると。浴よく室しつと脱だつて。作たく意いく

全等院
クハ
クハ

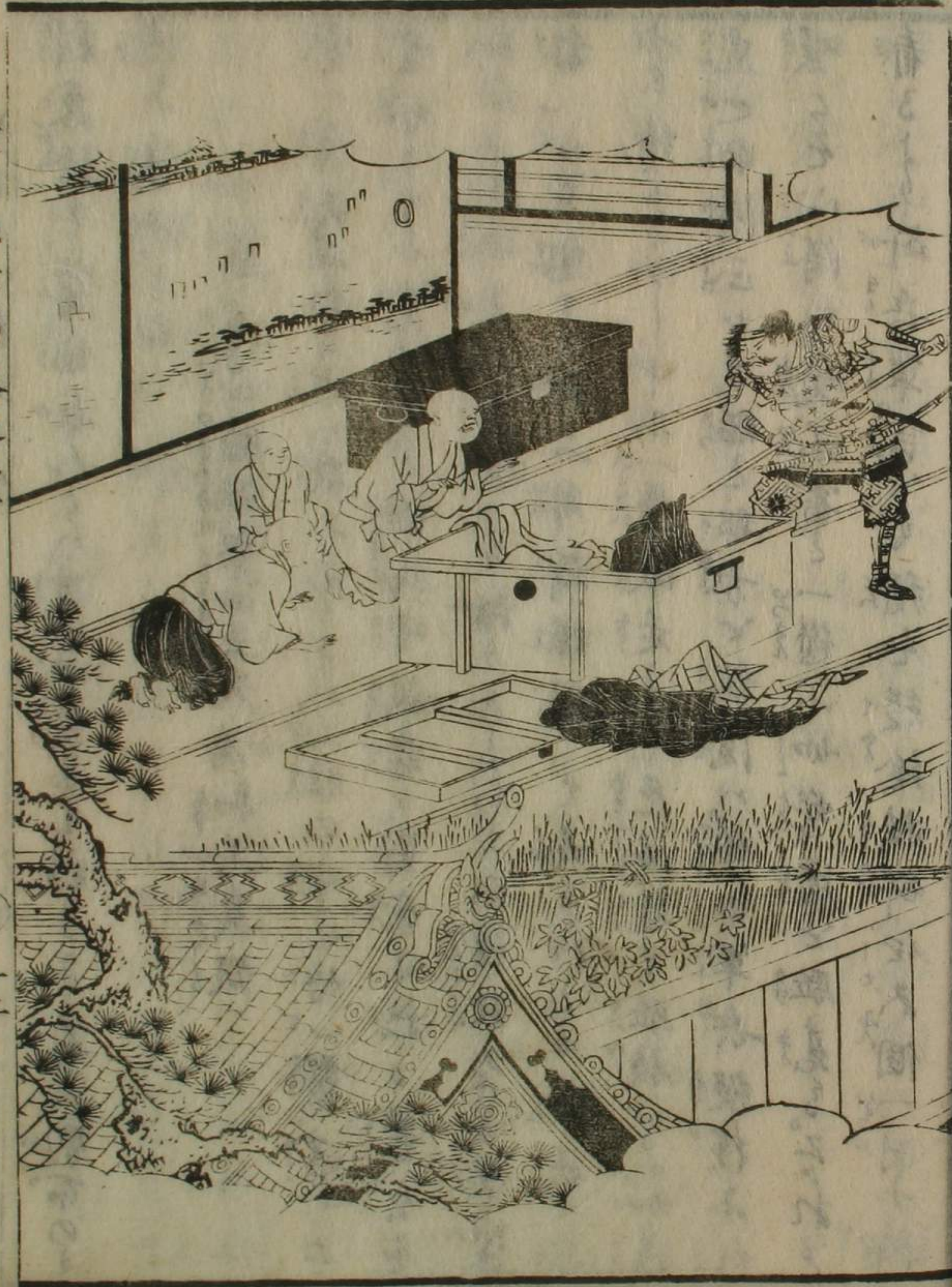
拵ぢょう拵ぢょうび浴よく室しつのうし。小せう投とう指しゆ拵ぢょう察さつ操さう小せう鬢はん髪かみと愈い愈い恐おそく
 剃し落らく除じよ。圓えん顯けんふあり。浴室よくしつより立た出で。象しやう走そう搖ようの丸まる竹ちやく小せう
 脱だつて掛かけ。衣い深しん褌ふんと。多た疾やくく拵ぢょうれ。身み小せう業ごうひ。厨く場ばうへ
 立た出で。信しんと看みれ。藥やく石いし齋さいの准じゆん備び小せう。新あたら發はつ心しんめ。腰こし
 法はふ子しグ。長ちやう三尺さんしやく除じよの柵さくと。斜しゃ小せう拵ぢょう。播は盆ぼんと。遠えん雷らいの如ごとく
 轉てんる。三さん年ねん越こゆる。古こ醬じやう小せう。鼻はなと澤たくを香かる。侍しやうて。秀しゆ台たい
 近ちかく立た倚よりむ。隻しやく類るい小せう笑わらう。僧そう衆しゆ小せう驚おどひ。尊そん宿しやく達だつへ。涙なみだ
 下したいん。手て易やくせん。羽う紫むら殿でんへ。柵さく拵ぢょう拵ぢょう在ある。但たゞ馬うま守まもりへ
 斯かとも知しる。剃し小せう尋たづね。浴よく室しつの門かどをひきあけり。
 温ぬる水みづ盥げんのあり。浴よく室しつの二に度ど拵ぢょう。巴は。這ま室しつ小せうも在ある。ね
 厨く場ばうへ。次つぎ取と小せう尋たづね。二に度ど拵ぢょう。三さん度ど拵ぢょう。熱あつ檢けんせられ。も。發はつ

豊臣記六編卷之廿

十

秀吉廣徳寺の浴室に
但馬守が
列火を
消せしむ

沐浴身休言願衆此
心身無垢内外清浄



新居除く醬搦在んとい。改孝愛も知らざる名。別不の
凌小舟撓りぬ

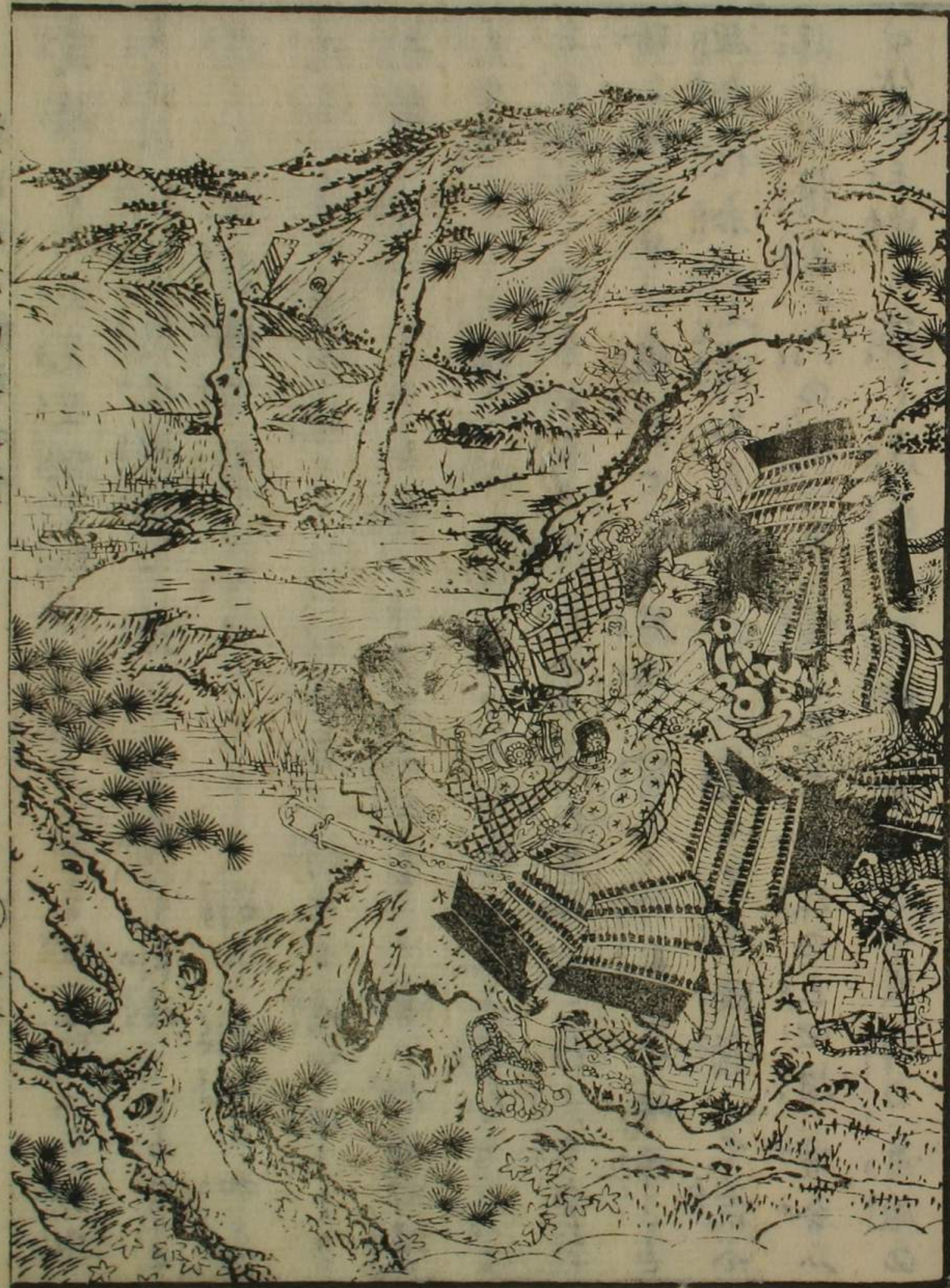
加藤清正魁駈撃四王天 属知主真假

雲ハ青天みあり水ハ瓶小ありとい。二昧の中の悟一雙迷を
雲水とも不見えま。但馬守改孝が。目茶不禱の豊公を
知ざるも亦是非ある。浩りたるを不後馳る羽柴
勢ハ心を總し脚小用。精根竭して走れども。食歩兵
力も續くより。中小一層激走し。尼崎近く駈抜する。加藤
虎之助清正なり。暗と那方と視流ハ。野の軍兵飛撲小。絲
噪らそ心得ぬ。噫不審と一變小。如發道と駈來る。それと
看るより。新兵輩言とも。謂を經途拈鉢。曰ふ個一同小棚

蒐る紙得ると清正太刀制軍聲め。順逆高低孺ひなく。敵
對奴輩斬散す。其際も主君の所所在氣惱し。それハ八方
小眼と賊りそ看輪せば。影さ小も見えま。心の中まなく
乱動し。胸ハ手脚と一様小。踊騰く。斯くを敵の伏兵
ある。最安くぬ事多と。忠義の心魂。裂石の像。猛勇
日來小百倍し。瞬際小十日又人右轉危倒小。砍起られ
這勢威小怖畏れ四方。亂と逃散るあり小。一個の新兵徑
路と。廣徳寺の方へ逃行し。適を身と勢蒐て。清正追行
斜斬小。洞音活く。砍放せ。寺へ逃投兵輩さけ小。袈裟掛
斬小東西の深田へ。倒没と。臨投し。這胸清正不意も。十
歩の那田と看るや。泥小深れ。撼めく物あり。睛を

瞿てよく視れば。まきまき。主君の騎玉ひ。副馬あるふら
 駿き所系馬此場小斃るうら。所身の沖安否意易なり
 收御所立と知さきまのあり。尼崎へ投せ玉る。這奴係の
 こみ存在き所習なり。君へ必定此邊小在。ますと賞
 すと烈火の像く憤發し。進進款と退退たぐ。南の
 方と看彌して。一息吐く存在り。這胸曰王天改考へ。羽
 柴政を尋得む。又門前へ立出ると。清正發くもこれと目属
 那精舎こそ疑し。これ先やとをうり。綱島の像く。走着つ
 大音あげ。それるま。曰王天但馬守よ。若君統州の所
 在存ト。まやとのを所より。但馬守も清正と。撃むんば
 あまう。怒と烈す。欺く。稟を中。やとれ清正。滯小

聽。明智將軍の明察まき。統守が一騎証し。馳登る
 と。高しや。乃長あ。び小。明石儀太丈。この兩軍小令
 せ。れ。速くも。這地。不埋。伏せさせ。待とも。知も。統
 無謀。小。單騎。馳。来る。と。這。改考。か。束。の。降。く。後。面。冠。者。と
 撃。援。つ。其。間。も。る。ま。不。此。来る。へ。居。る。者。の。眞。加。なり。
 汝も。迷。途。へ。供。せ。と。鎗。操。奪。し。と。擲。蕩。る。紙。意。投。つ。ら。と
 血。刀。の。鞘。揀。整。して。發。止。と。合。せ。嚙。く。喉。と。い。不。候。小。結。ぶ。網
 尖。鎗。鉞。を。開。け。ば。霹。靂。合。せ。ん。水。小。影。鑽。も。月。華。の。ご。と。く。
 頭。面。と。擲。バ。沈。む。砍。投。も。脚。下。小。瀉。せ。ば。高。く。跳。踰。後。に。烈。つ。
 虚。く。實。く。縦。横。上。下。ま。る。不。隨。ひ。大。地。へ。樹。木。と。共。小。磊。き。
 虎。嘯。つ。と。猛。風。起。り。龍。吟。せ。ゆ。も。暴。雲。の。脚。底。頭。上。小



豊臣記 卷之七

登瀛をり。火花又烟去烟追つ捲りつまる相れ。鐵皮の獅子
 王天小臨きて。忽地神通を得るが傍く。目冷しくもす
 烈しき傑戦勝劣ありとも思へざりしが。別く剛姚の加後
 清正。一層の勇や強りけん。但馬守が持てる鎧と。中より
 拵拵と破折より。力自慢の口を天面倒ると。鎧の柄を折棄
 先や播年と巨擘と招げ。跳蕩るとか希も共小。望むところと
 おの拗出。雙方胴合と接合より。づれも輪減らぬ大力を
 驗小端老樹の森然と。風雨雷響。所見あて。嗚呼と
 相合接合。六七遭りど挑むるふ。道も大才踏頼して。荒小
 臨し。精舎の門の礎とさへ傾く。年老松の三口塔。歴合小
 づふ小手望の鎧。皮悉く脱却しより。斯まを偉力奇雄の

猛士。年花さ。魔魅とも欺く。加藤の享年二十歳。四王
 天ハ三十八歳。驗小鐵と嚼石と裂。猛風見つ。漂くより。
 天順正義の徳あやありえ。清正雅あり。曰王天と。膝下は
 左手の齊力。小背骨と鐵着。右手もて。政孝が腕。揮拵
 索と罷んと。かきけり。と下より。政孝が。嗚呼。清正無
 方なり。武士の常事。勝負。取へり。政孝が。天命も。這期小
 盡く。今汝小輸るを。朽憾と。おのざれとも。索と罷て。一
 めんと。世小情。多に。野老あり。まや。唯尋常。小首。響と。の。小を
 清正。嘲笑。ひ。なり。容。易。小。首。懸。べき。汝。最。前。日。が。君。と。撃。ま
 か。せ。し。る。ぞ。偽。り。此。清。正。と。欺。く。とも。不。凡。の。我。君。汝。と。は。小
 最。易。く。撃。れ。る。小。大。將。あり。を。これ。よ。周。り。汝。を。活。捉。拷。問

豊臣記六紙巻之書

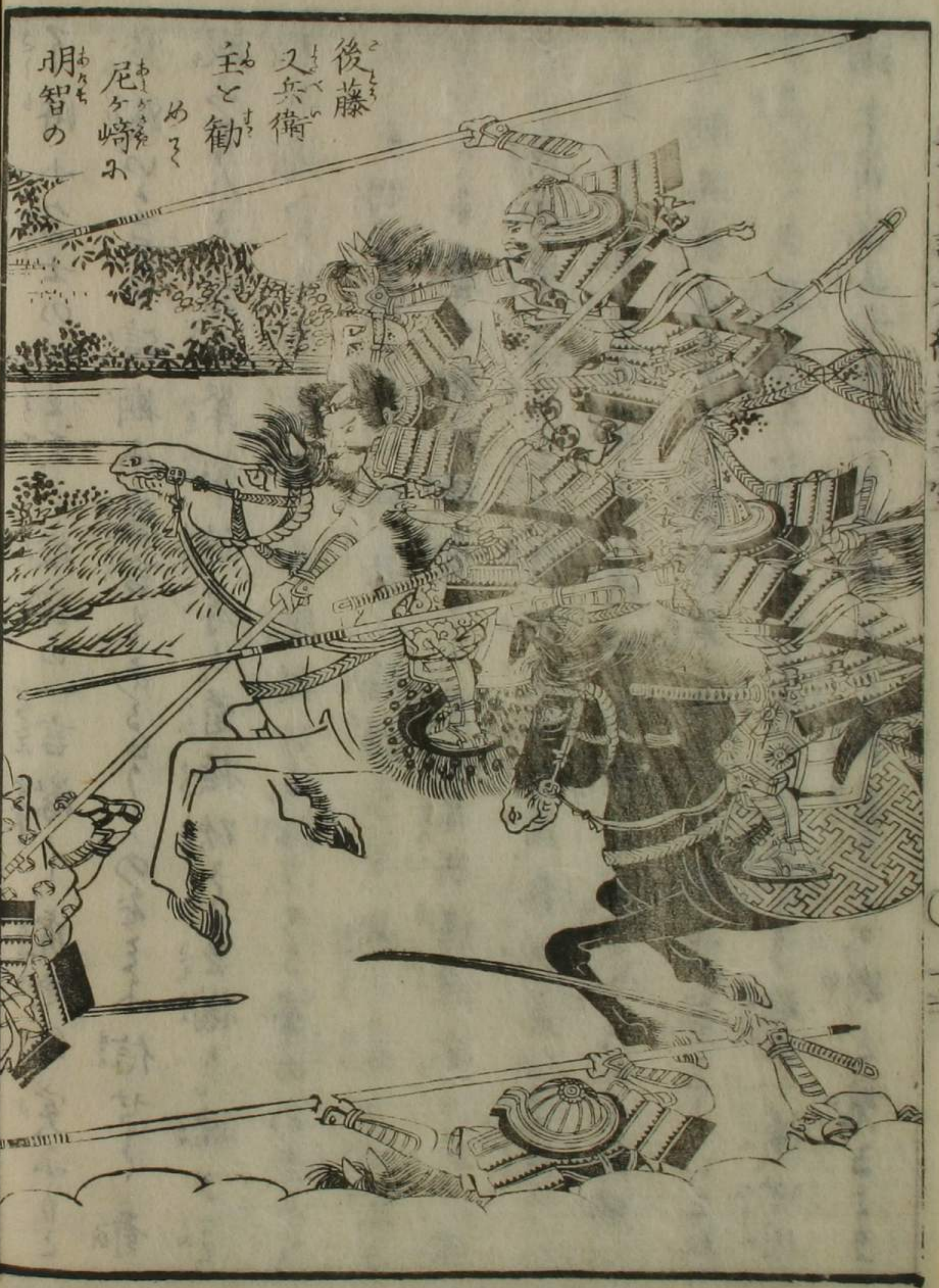
十五

乃苦楚と扼至君の所在と吐せん。たゞ一傳索の辱
 を煩しく思ひまは。如見小招道せしと責若らねく。但馬守
 方僅ハ匿まふ力あり。いふも最希秀吉と。這寺中ハ返投
 されど。いつく小鯨在るや。曾更所在と視失せり。天運強
 き筑前守。噫哭しや。光秀公も。羽柴が為小滅びまへん。彼
 寺中ハ今日小鯨あり。いづくぞ。今身を活女べきぞ。首と投て
 將軍の實檢不備つんもの。復念も運の高さ。此不思後
 ハ彼廣徳寺あり。三方總く深田あり。外小遁り道なれ
 ハ筑前守ハ這境内小。必定鯨在るや。人。浩る例提ハ性昔
 右幕下頼朝石橋山る。朽木の洞小鯨むひし。天壽小夜
 一き秀吉小款對まとも。事洵む。や首撃れ。清一と

不得小名士の口王天。最期の一言葉。虎之助実小ゆと
 黙頭。いささ。這期小虚言もあるや。のぞく小信せし。首
 殿らまんと。禁刀拏撃改孝。首捨欲く立揚り。速ぎま
 君小獨つんと。廣徳寺ハ馳投ける。浩りくる事のありとも
 知くむ。明石儀太丈ハ。野兵小指揮する。漸く来る羽柴が
 勢と。こゝ中臺て戦小機會。黒田官兵。湯孝高。又十餘
 騎の強兵輩。後藤又兵。母里太。湯。秦桐。若と先並と
 大。臺地小馳來り。當ると。海つりと斬く。繞走る。又十餘騎ハ
 會騎馬武者あね。歩行軍ありける。明智勢。まどく。これ
 不及ふべき。後藤小たり。多る。まどく。尼崎より迎の一軍。中川
 瀨兵。湯。高山。右邊。二百餘騎。ゆき。馳來り。が。斯と見ると



刻兵を
血を
古に



後藤
又兵衛
主と
勸
め
中
尼ヶ
崎
小
明智の

隊そま仗しやうの整ととの糸いと路ぢと塞ふさいし捕とら稠ちゆう一いつ處ところ遁のがれぬところと明あ石いし勢せい
 おのひの信ま小こ苦く戦せんふし。食まく毆う死ししつる小こぞ。今いまの儀ぎ太たい丈ぢやう一いつ個こ
 とあり。は王おう天てんが事ことのころ小こ罹られむ。廣ひろ德とく寺じの方かたへ馳ち注しゆ看かん
 小こ。哀あはれや胸むねのそ残こりしり。さ小こますくカと損おし。諸もろの羽う柴さいと
 撃う漏れせし。そのそるて其その身み之を討う取とりしと覺おしり。自みづか方かた
 残のこらば戦う死ちし。今いまのいふおのりも給たまなり。備そあふ死しあると觀かん念ねん
 せしが存ぞんび深ふか念ねんしりし。咱われ方かた僅すこ此こ所ところあり死しむる。破やぶ謀ぼう
 の事ことと至いた君きみ光みつ秀ひで。於お後のち之を玉たま之を。是これ大おほ將しやうの一大いつ事こと。惜あはれ
 あらぬ命いのちあれども。要ま時とき保たもちし。這この場ばと遁のが出で。君きみ小こ延のび伸のむ
 さんめと。淺あは膚はだ被かと都みやこへ脱ぬ身み。正ただ躰たとあり。深ふか田でのあり。泥どろ没ぼつと跳は投な泥どろと吹ふ起き。苗こ捨す分ぶん辛からし。活う路ろと討うり。都みやこの

方かたへ逃に帰かへりぬ。これ小こより。方かた僅すこハたも敵たき一個ひとつもあらざれば。
 畠はたけ田で。中な川がわ。高たか山やま。儀ぎ。兵へい士しと一いつ隊たい小こ率しゆ纏まとめ。秀ひで吉よしの所ところ在あり。尋たず
 ねりも。各おの備び小こ廣ひろ德とく寺じへ馳ち聚ある。然しかれども小こか藤とう虎こ之の助すけ清きよ
 正ただハ。之の君きみの所ところ在あり。と求もと得とんと。寺ぢやう中ちゆうと晉しんく走ま廻わり。君きみ小こ
 へいづく小こ在あり。まど。虎こ之の助すけが清きよ近ちか請ひ小こ進しん糸いとと。是これと呼よぶ。尋たず
 ねられども。見みえむ。その下したへ畠はたけ田で。福ふく島しま。片かた桐とう。脇わき坂さか。中な川がわ
 高たか山やま。次つぎ取とり。小こ寺ぢやう中ちゆうへ馳ち着つ。這この場ば郡ぐん圍いと搜さがせと。聳たて見み
 玉たまのひ。各おの途とち方かた小こ暗くらし。時とき境かた小こ羽う柴さい入い道だう。此こ小こありと本ほん
 堂だうの心こころ中ちゆう小こ直ちよく瞿くと立たせむ。ひとれむ。諸もろ將しやうへ別わかく同どう音おん小こ清きよ安あん
 射やふ。悲かな悦よろこむ極たぎと。賀がし。ま。わ。せ。つ。も。觀かんて。そ。ま。つ。れ。む。斯かの。い。つ
 小こせん。いつの際さいふ。久ひさ。判はん發はつ入い道だう。ま。ひ。飲いんく。然しかれ。も。津つ相あ續つ

小呆るくむりうち驚きうが。これも必定敵と欺く。所智の方便
 小ぢをさるんと。感ト入する輩もあり。中川瀬玄清秀
 へ勇猛傑気の性災るれ。這作と看る大地小唾。噫矣
 止なり。這遭の六變吊合戦と催さんと。快よりおのひまらうとも
 先秀へ殊小強敵とむべ。これ小敵まる器とつた。羽柴と頼
 のりなれと。今日中を小吊軍の期と舒。一哨と高山兩人が。世を
 出迎けるものと。羽柴殿の儀謀も。明智の方謀小陥り。
 奸兵輩小捕巻。武士の所行小あまらさ。利發かりて圓
 頂とるると。言絡小断。了。奉止なまや。那般の醜さ。怒めて
 へ徳大將と崇むるの意なり。其へ左も右も明日も。右大將殿
 の吊合戦小勝利なり。徹思なり。據恃くぬ。羽柴殿よと

勝る成。聆く。福島市松。些も堪らぬ。壯士をね。森と購。く。く
 声振。奮。い。それぬ。憎言。隻。狂。り。今日。奸兵の。謀計を。備。別
 人。中。あ。ん。あ。ん。浩。る。虎。口。と。容易。適。出。ら。る。す。ま。ふ。不。得。り
 哨。君。を。ね。ら。る。と。火。急。の。場。を。が。所。智。と。廻。ら。し。危。殆。と。通。れ
 む。い。ん。古。今。中。も。あ。き。名。將。な。り。ま。や。脱。小。先。達。く。終。池。田。氏
 小。入。道。せ。し。れ。名。と。革。め。勝。入。敵。と。号。る。と。か。や。吊。合。戦
 の。事。ある。との。成。變。と。利。の。所。出。軍。正。真。忠。義。の。厚。き。公
 上。大。張。と。ら。る。稱。嘆。ま。さ。き。成。然。ら。る。く。一。部。終。せ。ら。る。と。な。
 獨。懷。五。極。の。詞。み。ぞ。あ。る。慈。ま。で。小。懐。を。定。下。一。人。あ。ど。今
 中。で。小。義。兵。と。茶。一。明。智。と。一。戦。小。及。な。れ。ざ。り。阿。容。く
 今日。中。で。哨。君。の。帰。陣。と。待。し。光。秀。と。依。べき。方。術。の。あ。き

のちんと鬚逆まき罵りければ瀬兵衛も忽ち氣色は
 変りやそれ市松捕臣の身も在らざる。挿嘴する論返答。
 慮外者面と敦圍けるを福島もすく憤怒と發し。
 既小搦事の起らんとさる。諸將左右小推隔。双方と省め
 賺しりも。制止しける機會くも。陣笠深くうち冠りし。
 一個の駈年騎換の馬の鞭韁短小搦操く。本堂間道く扱
 身りし。突と中央小攀より。秀吉入道ふるち驚ひ。淺野
 八兵衛左衛門。身換太義と宜小を。個々異々も難ああると。視
 遣くも。是を正しく。羽柴筑前守秀吉みくを在りたる。
 入道鷹と俛伏く。惶致小その相顔。面鉢骨庚寸分も。筑
 前守小違ざれば。つれをいつと。視擇がく。諸將若ひ嚇得

なり。禍も身へ惘然たり。秀吉諸將小向をせむ。執衆も
 不審の理有り。唯中國の和睦。禍ひ。火急の上洛。諸將小先
 達。卓騎駈小登ること。君父の仇は是正しく。俱不戴天と
 こそいふるれ。片時も速く送長明智と殊代して。亡君の
 所怨靈と慰めん。亦二つ小の明智光秀。容易あくる
 大将也。方術と廻ら。畿内と小搦。近國の諸士勦
 かせむ。退治せん事。易くす。二小の將軍。宣下ありと。聆
 べ西國四國の外。款す。勅と重ん。ト光秀小。荷擔のん。と
 生せん。これとゆり。一日も。等閑まかり。がく寸時と。軍
 ひ。斯ま。劇く。馳登り。然る小。光秀。唯と。毆え。段や
 あんと。後く。より。淺野。孫兵衛。か。強く。の。勦め。小。不仁と。

源平物語



三十一

筑前守身と
賤早もく明智の
悪計を脱せ
久

書目言六



三十一

思くとも。長政が後身なる八府左衛門が面相の秀吉小似る
 を幸路。他知れど西の宮小隠し置。最既敵地小迫るれば。
 彼處ふあつと。哨装束と八府左衛門小被換させ。馬少先
 駈させりも。哨へ後より權の駈率小お扮来りつるが。哨へ格
 別八府左衛門が身小おわす。解も命と全しり。に王天と欺き
 して。大張の少智感嘆しり。と命せ小緒將の唯と僥倖。古
 今獨歩の名將やと。愈万歳と唱へり。八府左衛門の面目の
 其躬小餘るまじく。忝く。東途伏兵の危難。廣徳寺の始終
 と。遺もあつ言状しり。秀吉すく感賞せられ。實小
 某方が存命。自方勝利の示兆あり。中川瀬公場が粟す
 條も。丈丈の氣見えを據拮し。市松が足下小對して。過言

の不禮も。哨小免と。堪忍われと。命せ小中川清秀も面
 色和げ敬服しける。

秀吉賞賜左近手賜權刀屬潛乞輪旨

紀信榮陽城と出。漢王小代り。忠義小賢し。智勇
 命と敵中不預せり。當日這淺野の事小おけり。其
 其人君臣の鏡へあれども。能信小成課せり。身命と命小
 たり。芳命とめて。頭を。忠信智勇と有得。居家の
 功の莫太るもの。君の徳も廣大あり。後。羽
 羽紫殿。存び命。奉されり。哨素亡君信長。吾出
 され。壯年あり。昔日るれば。猿面冠者。藤吉と。卑
 られ。呼服され。所馬の籠あり。次第小出身。坊録し。

合備并家
天恩を授け
の長子
養子に承
一個分令
子於住
和州添上
致高野の庄
小治ま
ひそが手
本夫頼成
より宇治
孫を頼成

今ハ緒假小列せしれ。羽柴荒布守秀吉と名獨山陰山陽
西國をすで。總追捕使の任と蒙り。斯すを武威と懸まら
合是君の大恩あり。昔日と忘れぬ意とあり。方僅籠の相形
と這宗尼ヶ崎ハ進賊。明智征伐の高嶽不臨せん。中川吉
山兩將ハ激歩懸ハ進陣られし。緒將ハ奮く駛率をそら
出馬の準備と指揮せしれ。隊伍行列嚴ふ。尼ヶ崎ハそ急れ
ける。其ハ関き茲ハ和州郡山の嶽を。筒井順慶入道ハつ
日の高嶽ハ島左辺不勸めしれ。明智ハ同意の解と欺也
一万余騎と八幡あり。法螺が嶺ハ嶺ハ推發。大将ハ猶
急氣と倍り。左辺友行。緒假不脱失なく。棒と料理。中國
すで情子を走す。事の始終と揮らせける。小治ハ賢慮あり

まうも遠し。秀吉の器量廣大なり。毛利と抑止直比
不帰軍。吊合戦の衆行るれ。備と若び主人を勸上
荒布守ハ使者と偽り。勸力同志と言容ぞんべあふ。度
雅何と斥んより。乃臣進賊のまんと。其準備とを
すらふ。備兵尼崎の城中。神戸侍後信孝丹羽又前
左邊ハ長秀。城ハ池田勝之助。信輝入道。勝入系
池田紀伊守信之。中川瀬々清秀。瀧川伯耆
守國茂。高山右邊長房。その外ハ堀久を前。秀吉
蜂谷公羽守頼隆儀と叙す。近國の緒將は松本集り。
合戦の高嶽をまといし。不將の明智不懦風とて也。我
征出んとし。輩もあく。後ハ時日と送る。秀吉不帰陣

せられし。満城の諸將食等しく。闇夜不燎炬を得る
 意味し。傾心しそを飲び多。斯く赤島左辺友行の九日の
 晩不遠おそる。尼崎の城不味り。筒井順慶が使者。島左辺
 春候し。言し。言授多れば。法野孫兵衛これ不復發也。左
 邊種多言ま申。多きさり多り去ぬる二日。京都におおき
 大愛備中。大居殿所父子所生害の條所同然多悲候。
 言多きやうも。白人順慶が身不就り。織田家の高
 恩報酬不彈也。これ不依り。這邊へ快も吊合戦と。諸將
 と高禪まづきのところ。憎生や白人順慶。近來持病不
 惱まされ。此地へ春候つらうらさへ。相做ぐて不禮不及ら。
 然ると大將筑州殿。中國の款を賤し。あふのとなりて。

加勢とまを率せられ。上洛あつて大居家の。吊合戦あらん
 と。憚るが。不思議の法軍。拙き各候が胸中。不感
 なる所多。勿論順慶病中。あれとも。一万余人の軍兵を。
 八幡の南法探。嶽多。進出置ひぬ。是へ法一戦の時。不臨
 して。加勢し。あつて。快く上洛し。あつて。度々を。馳ん
 相等し。そ手ら。畧式多。島左辺を。所帰。若の法。況
 因赤法軍配の列伍。も伺ひ。主人順慶。をも吊合戦の。一
 隊。不召加させ。あつて。家名の面目。これ不過。むら。這儀
 單不頼。ひたす。と。辨舌大河の流。多。係。最。爽。不。演
 々。法。法。野。搜。終。不。内。徹。詳細。不。言。決。不。あ。つ。び。り。秀。若
 頼。く。此。度。の。合。戦。明。智。と。ゆ。つ。敵。と。あ。る。れ。ば。尋。常。の。あ。と。

な〜と覺〜。軍謀之丈の最中あり〜。今畿内の大
 家ハ筒井小上越〜のあらねば。渠と自方小招く不如也。然れ
 とも順慶ハ素光秀と二の親好ある者なれども。欲心深
 き矢小着授方術とゆ〜料理をん五。車易〜んと思慮
 とゆ〜。其機會〜。淺野長政進出〜。左近少言と披露
 一々ねば。秀吉の掌拍〜歎喜をひのぞや。左近小對面志し
 と竹の大廳不出座ある。左近も不將の勇士あるねば。緒好の
 列幕と憶せせ穿步。秀吉の益〜。俛跪し。茶詞の如く不演
 説を。秀吉熱〜。听〜。雷の如き声と發〜。鞭打〜。ち
 笑ひ。使者の口状不〜。不心响〜。順慶ハ胸中ハ能
 察徹〜。從來明智と順慶とハ。二ともあき交不〜。

這道本能寺大變の後。使者と遣〜。荷擔せ〜。鏡小照て
 親る〜。如〜。順慶定ゆ〜。これと歎ひ。上洛を〜。數國を
 順〜。威と振〜。んと揮れ〜。汝が例の智計を〜。
 我上洛と推量〜。借小明智が方不降服。虚病と没て
 名と匿〜。法螺が嶺不出陣〜。今其方と使者〜。
 這尼崎〜。僞〜。却〜。我と欺〜。后其ハ一戦小至るの〜。
 今〜。ありとも勝〜。方〜。荷擔〜。鏡瀧永〜。國家と
 今〜。あさんむと。運と兩銘小謀るの方術も。愈是汝が肺肝
 巧出せ〜。不遠なり。信義と知さる。邪曲の舉止。片腹
 厭き。虚謀計。這秀吉と小兒と。かひなく。返答あ〜。立降れと
 天地も濫破る。大察神智のその不〜。造化不列在。緒士も

大将の高瀬察小感服を。然ども深慮の島左邊を。一も
 動する気色なく。隻頼小笑く。拵く曰く。小治和州小後居
 一つね。偶時拜顔つまつり。器量の程も兼所の。然る
 小所一と今見一と。声と響の想違る。最も筑州の命口
 不違を。明智方より順慶と拵推せん。種く不言。誠
 ゆつとも。道と正一義と堅く。曾くそれ小取教め。度。
 羽柴殿の所上洛と。時等日待つまつり。忠士の倫輩結盟
 一も。是遊一戦と。遂ん心腹。それゆえ小こそ軍兵を。八幡の
 地まで出張せん。明智が不意と。代んが。あり。い。や順慶
 運と。両端小取る。計緻ありとも。今ぞ天下と分裂する。の勝
 負小。一丈秘事の合戦る。緒方の将率。進退を

と。危ぶむ。苟も主人。順慶ハ。其勢一可小餘る。ものを
 くれ。の軍兵轉隊。一も。明智方小加勢せ。微些ハ妨つ。ま
 つ。あや。筒井の一万餘騎。他軍。自軍。分明。あり。ま
 と。狐疑。する。遠左邊。使者小。筑州。も。喜悅
 せ。速小。分格の所。指揮。あ。せ。れ。諸軍。も。これ。を
 示。一。軍威。大。小。輝。きて。勝利。必定。あり。ぬ。一。防。び。が
 中国。の大敵。一。歴。課。せ。軍。と。返。一。今。這。必。小。總。大
 將。と。あり。一。器。小。明。察。大。量。小。慢。ト。五。心。全。態。の。機。用。を
 捨。去。る。器。量。小。似。ざる。之。謀。の。吟。水。至。く。清。く。れ。魚。接。し
 ず。人。多。く。察。ま。る。ば。隨。後。なり。と。聆。つ。る。言。の。這。小。叙。て。思。ひ
 當。り。所。疑。も。時。小。據。め。の。す。き。致。至。人。の。存。念。徹。通。せん。ば。

僉是使者の失あるものと。俾あがく所深遠くさうかうれ
 ようと大音勢不重しける。秀吉斜拍とうちまひ。左邊が使説
 秀吉殆感ト投り。汝が器量と探らんさぬ故意激、一そ
 言発さるふ。果々我が腑不合り。君命をわく辱めざる。
 使節の毎々軽し不憎る。寫左邊感トとも猶余りあり。又手
 入道敵所不収の赴。暑穢の時節と所固断る。専保表
 せしむべし。秀吉が武運不稱少や。這處を弛着るれば
 一兩日か其中不愉快一戦と遂。亡君の仇を代すわらせ。本意
 を達せんと懐発さる。それより所房の所加勢と。一向特む処
 あり。微些も快気せられるべ。速地子所出馬と怖欲まる。勿論
 戦場に分格も。彼此あつとめ不定り。后へ敵陣と簡要の

隊他とまをれば。全勝あるべき一戦と。某方別く謀らつれし
 入道敵へこれらの返答。よろしく聞達せつと。方僅某方が
 奇絶の一言。自方の説氣と長むる功あり。是ぞ一しく勝利
 の兆と。大悦斜あつとれば。恩賞ハ後日所法まきさ。當座の
 褒美と賜へんそ。拉進せまひ。棟刀ハ六尺むらりの埋朱の
 棟小浪と。や控巻一ある。五分及の薙刀と。手自賜賜られ
 べ。左邊の刺の切思ふ。三返す。呈戴き。跳退下る。入膝と抛ち。
 噫物体あや不禮過さる詞と。所答あつと。然らる。却る
 所態の徒意と被るのそ。所棟刀を。既安る。所仁澤ハ
 百生涯の面目大喜。海水と。ゆる誓あつと。軍々暨ハ。の
 まづき。浩る仁義の所心と。向せむ。戦場不勝負ハ。時運不



鳴左衛門 秀吉の 感賞を 被る

二五



鳴左衛門 秀吉の 感賞を 被る

鳴左衛門 秀吉の 感賞を 被る

二五

任まらぬつとも。義兵とありて君と弑せし。逆徒を誅する
 軍あり。誰う勇氣の増さんや。今拝領せし棟刀也。
 敵將の首と鷲地不撃提鉞夫不貫。實檢不備多
 ずん。既所辞別と驍勇の詞。羽柴秀吉も。吾と忘れ
 て歡躍せし。驗不驍す。這后とても隊伍の分撥
 兵士の進退。主人不代り料理。且亦吊合戦の十二
 日とて決定され。其旨決と記憶あれとて。所別辞を
 賜りたる。左近の所帯と退出す。八幡の陣へ立序
 りぬ。斯く大将秀吉。諸軍の勇氣と副人のと。席と整
 へし。稟されたる。總て軍と起す。立名する。乱と故
 あり。乱と故あり。暴悪の賊と誅する。是と号て義兵といひ。

奮き根のわると。これを代人と軍と起す。これ後号す。
 貪兵といふ威勢との。敵不見する。これ後号て驕兵といふ。
 吾輩が這遭の一戦。亡君の仇明智と代の吊軍。是れ
 是心。義兵と縋つ。然ども古来の例格不倣ひ。宜
 禁裏へ奉聞と逆徒退伐の論旨と乞奉。然して
 一戦する。丹羽長秀。驗不秀吉の命。万全の理とて。驗え
 され。總大将の職不在。羽柴敏より出奏あれ。この
 秀吉存然不あらず。原身不盾の身とめし。大将の席不
 獲む。憚ありと存せし。衆議決。憚不是。非かく受
 諾し。乃長とて。亡君の奉恩。後き不あざれども。

各ハ素織田家累代の功長る。それをうり久信孝公のたま
 のと。此より預ひ出らるる。道ありめと東さる。信孝
 長秀信輝係一向羽柴不持とる。秀吉要時沈吟
 せし。然乃弓使者とらる。奏聞せん。其人ハ維上渠上
 と擇むれけり。這駒近郷隣郎の寺社ハ勿論。高丈農民
 織田家恩顧の人ハ秀吉之事の席着と悦び。所吊の
 約經く。尾ヶ崎ハ森集し。門示不市とあり。願群不山
 田明養寺根川末田 邪丹不在も在る。秀吉渠と召倚られ。尊者近
 才煩号る。上京せり。傳へる。結受せり。大
 大悦あり。其像とつら。別表あり。這遭送賊光秀と追代
 の。論首と乞えん。响候が家臣と供奉せられ。禁裏ハ

奏聞し玉と。欽悦殊不深と。と命せん。山田明養
 寺。恐惶し。誓答せり。肩あり。負道ハ一大事の義と命
 聆られ。感涙の溢る。身を切致し。存トる。所あり。這身ハ
 到る大任あり。名將の所威光と頭不戴。是亦不論首と
 台奉。退陣ゆとんと。欽び。驍て見え。秀吉ハ悦笑。小
 容られ。然ハ斯ハ料理れ。坊田仁右衛門。小西孫九郎の兩人
 と。明養寺小供護せさせ。尼ヶ崎とお養。京都の地小到り
 くる。明智方ハ橋く。秀吉既。尼崎ハ。橋を。
 義太丈係ハ若く。登くも。聆れ。平安城の幕門ハ。後ハ
 く衛兵を固らせ。往來の人と逐一。改め。通さるり
 多。然ども。山田の明養寺ハ。出家の身。外。智も。増田

羽柴の密使
綸旨とていんと
増田小西倭
京都へ登る



小西の兩人の伴僕の手扱るる成りて。浩々事と意も察む。其
 終りて通一なる名。直地小傳奏。園入納言家敏。秘波
 中納言家豊。卿小祇惟。外惣所。衣履と革。傳口
 司小就。言状。俺們輩。羽柴筑前守。居家。増田仁
 右衛門。小西。九郎。と。の。者。あ。く。い。か。自。人。秀。吉。恐。惶。あ。ら。う。
 奏。一。た。て。ま。つ。る。條。ゆ。へ。恭。朝。一。そ。ま。つ。る。と。稟。一。た。ね。傳。口
 司。その。終。子。將。一。言。上。一。た。ね。家。敏。卿。兩。人。と。召。出。さ。れ。く。詞。の
 蹠。蹠。と。所。訊。あり。ける。小。増。田。小。西。経。を。恐。惶。言。状。一。た。ね。い。
 這。遭。明。智。日。向。守。送。意。と。ら。う。い。重。恩。の。主。君。と。執。一。帝。都。の
 地。を。犯。せ。一。其。罪。輕。く。ぞ。差。小。用。く。身。不。屑。な。れ。と。も。主。人
 秀。吉。中。國。の。毛。利。と。和。睦。一。急。ぎ。進。帰。り。く。亡。君。右。大。臣。の。

鬱憤と散トヤム。遂に賊明智光秀と。殊戮の。一。い。ら
 ち。と。擧。州。尾。ヶ。崎。を。馳。登。り。然。し。一。近。日。山。崎。小。お。わ。く。
 吊。合。戦。つ。ら。つ。ら。と。小。織。田。家。信。代。の。緒。士。高。級。一。決。小。賢
 一。秀。吉。小。大。將。の。任。を。讓。ら。れ。ぬ。然。ら。う。と。い。恐。ろ。く。遂。に。後。退。伐
 の。論。旨。と。頂。戴。つ。ら。う。と。一。早。子。預。け。な。さ。る。る。光。秀。は。是
 庸。凡。の。怨。敵。あ。ら。う。俱。不。戴。天。の。仇。と。わ。れ。た。所。時。も。安。穩。小
 園。と。社。を。以。最。故。右。衛。門。子。息。に。あ。れ。と。も。弱。冠。一。と。め。て
 万。端。と。會。秀。吉。子。任。さ。れ。た。れ。た。落。臣。の。身。と。も。所。顧。ま。預。け
 する。の。條。宜。一。執。奏。一。玉。を。さ。る。る。累。遍。も。度。帝。に。さ。す。つ。と
 あり。と。演。不。さ。る。大。納。言。殿。聆。一。せ。れ。是。私。の。事。小。あ。ら。さ。れ。た。
 奏。聞。の。う。へ。傳。太。小。お。わ。く。一。と。て。所。時。小。出。奏。一。玉。ひ。た。れ。た。

豊臣記六編卷之七

三十三

公卿おのゝ泰内あつゝ。大伴論不迄をれ々々。事調ふるに
て論旨下らば。羽柴具負の公達へ。本意多く退散せり。多
園。難波の両納言も力弱く。羽柴か使者の兩個不。那條の
次弟を傳説あふふぞ。増田。小西も便と失ひ。辞をいふに
所地不委置る。尾崎へ立寄り。秀吉へ斯と言ひあふを。
禁裏の経緯を聆及むれ。羽柴敵への事も更る。織田家
の忠士義臣の個々。心より思はれ々々。秀吉の微些も
屈せば。諸將不嚮むれ。能令論旨いふらば。俱不戴天
の主君の仇ある。逆賊を争ひ安座させまふま。光秀警ハ鐵
石城不堅守はとて。伐滅させかく死す。這上ハ片時も速く。山
崎境へ出張し。逆賊明智と殊をさす。亡君尊靈への忠

節なれ然くあゝむと満座と流覽。今せ々々不思田。峰
須賀。池田。中川。福島。加藤。淺野と叙。これ由奉く。突小
大將の命の如し。今ハ遅延不る。さ。答小秀吉。然くこそ
と。急小緒軍へ徇循し。他天六月十二日こそ。山崎境へ發
向まふ。事既此不究竟。久理

繪本豊臣勳功記六編卷之壹 終

